

噴出事象について

【現状】噴出防止工後，No.3 で9月と11月で採水時に噴出事象が発生

- ・ H26.9.3 第2回水質調査時 噴出時間3分 高さ2.5mの噴出事象が発生した。
- ・ H26.11.10 発生ガス等調査時 噴出時間3分 高さ2.0mの噴出事象が発生した。

【原因】採水を実施することで，水と共にガスが誘引され噴出事象が発生(図1)

- ・ 採水方法

地下水位(1.1m～2.4m)より約1m下から水中ポンプを用いて採水を実施。

- ・ No.3の仕様

他の採水地点と比べて最も細い口径(52.5mm)を使用。

- ・ 想定される噴出メカニズム

2m付近，6m付近の粘土質の覆土や廃棄物層のビニール等でガスの放出が遮られることでガス溜まりが形成されており，採水により，水と共にガスを誘引してしまい，噴出事象が発生するものと想定される。

【工事後に噴出する原因】ガス溜まりにガス抜き管が当たらなかったことが想定される(図2)

- ・ No.3周辺のガス溜まりの範囲は小さく，4m(深部)・10m(浅部)も離れた場所でNo.3周辺のガス溜まりに当たらず，ガスが抜けなかったと想定される。

【対策案】試験的にNo.3bから採水を実施

噴出が起きる原因は，口径の細い観測井戸であるNo.3から採水を実施することにより，採水地点を新設No.3bガス抜き管(内径200mm)に変更し，噴出事象が発生しないことを確認できれば，今後の継続した噴出事象防止となると考える。

※採水結果を比較し、水質が同等であると認められた後に実施

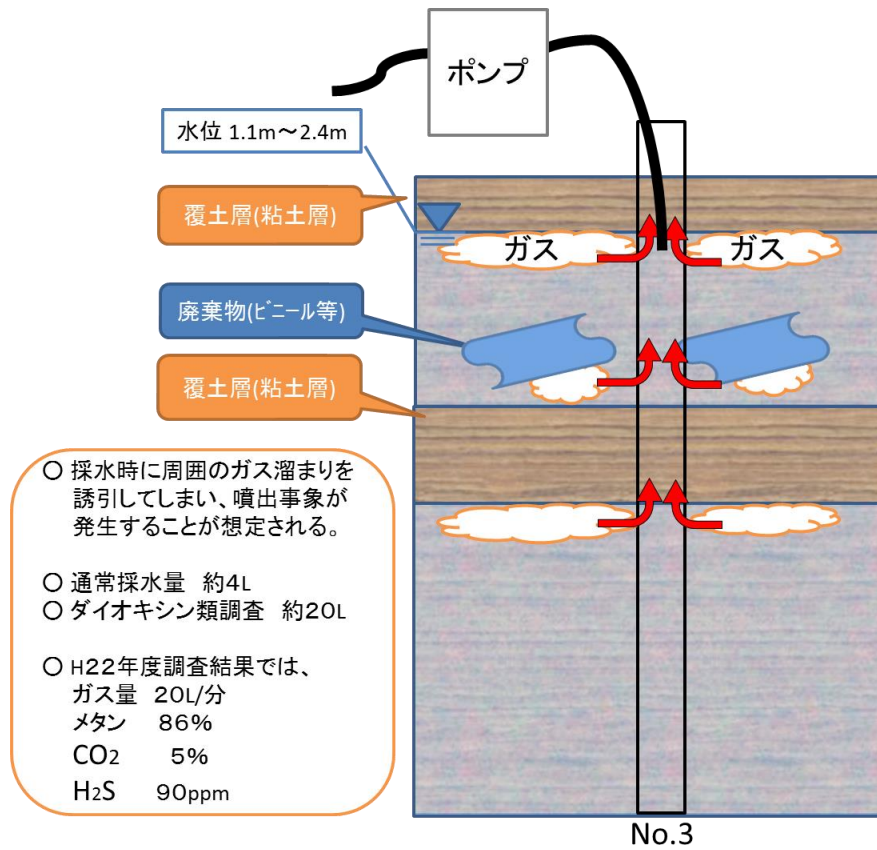


図1 想定される発生メカニズム模式図

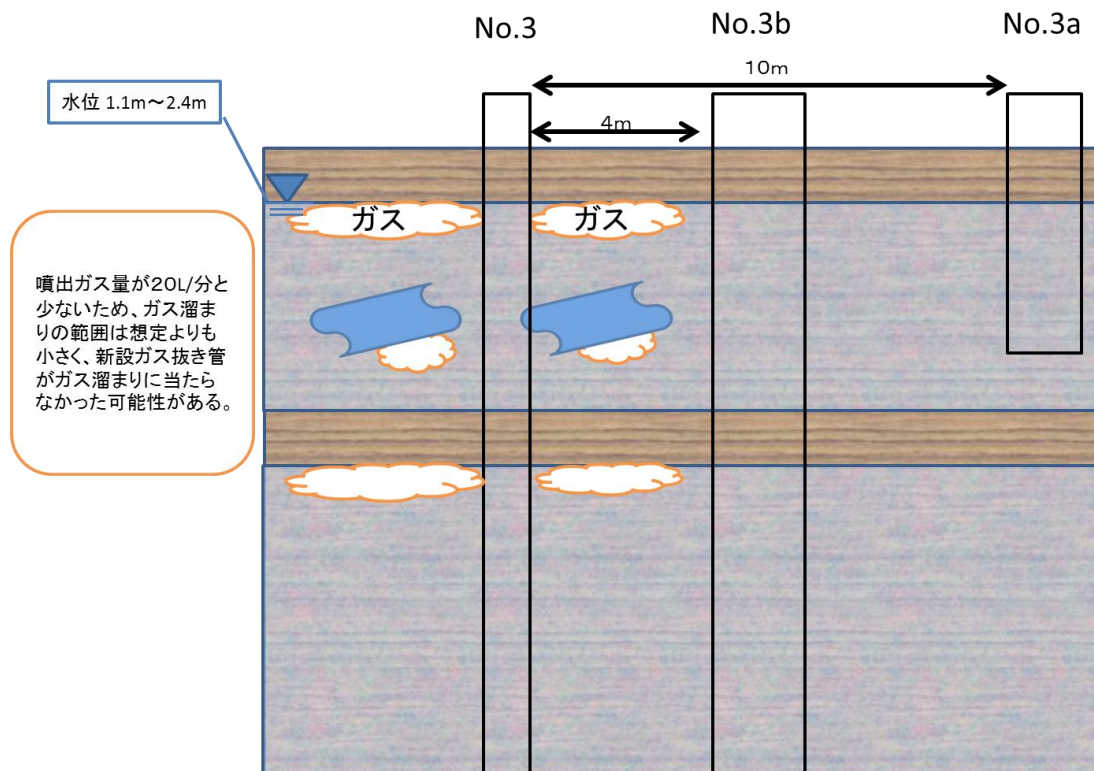


図2 噴出防止工模式図